四季の営農
ワンポイント
アドバイス
【園芸指導】

家庭菜園における害虫対策

【指導員】 園芸課　菅原　大

5～6月にかけて定植される野菜の中で、家庭菜園でよく栽培されるオクラとナスに発生する主な害虫の特徴と対策について紹介します。

オクラに発生しやすい害虫

ワタアブラムシ（アブラムシ類）

5～10月にかけ、新芽や葉裏に寄生し、結実期には果実にも寄生。葉や新芽などを吸汁し、生育を阻害します。また、排泄物にカビが生えることで、すす病が発生する原因になります。

ワタアブラムシの対策

新芽や葉裏などをよく観察しましょう。薬剤散布時は葉裏を中心にしっかり散布しましょう。

薬剤例：モスピラン顆粒水溶剤、トレボン乳剤など

▲葉裏に寄生するワタアブラムシ

ハスモンヨトウ（ヨトウムシ類）

7～10月にかけて発生します。成長が進んだ老幼虫は、多発すると葉脈だけを残し、葉を食い尽くします。

▲葉を食害するハスモンヨトウの幼虫

ハスモンヨトウの対策

成虫の侵入防止に防虫ネットを張ることが有効です。幼虫は見つけ次第補殺しましょう。多発した場合は早めに薬剤を散布しましょう。

薬剤例：コテツフロアブルなど

ナスに発生しやすい害虫

オオタバコガ

春から秋にかけて発生しますが、幼虫は7月頃から目立って発生します。生まれたての幼虫は葉の表皮や花の中に潜り込み食害しますが、成長が進んだ老幼虫は果実や茎にも食入します。食害量も増え、果実の内部を次々に食害していくため、被害が拡大します。

オオタバコガの対策

ハスモンヨトウ対策と同様になります。

薬剤例：コテツフロアブル、アファーム乳剤など

▲食害により穴のあいたナス

ナミハダニ（ハダニ類）

5～10月にかけて発生します。葉裏に寄生し吸汁。小さな白い斑点ができ、かすり状になります。被害が進むとクモが巣を張ったように株全体が白くなり、生長を阻害します。特に高温乾燥時に増殖し、被害が拡大します。

ナミハダニの対策

発生に合わせた薬剤散布が重要となりますが、薬剤耐性が付きやすいため複数の薬剤でローテーション防除をしましょう。

薬剤例：ダニトロンフロアブル、コテツフロアブルなど

◆　◇　◆

今回紹介した害虫は、オクラやナスだけでなく、多くの野菜や果樹などにも発生します。害虫の特徴を捉え適切な防除を行い、家庭菜園を楽しみましょう。

また、紹介した薬剤は一例です。使用の際はラベルに記載されている使用上の注意をよく読み、用法を守って正しく使いましょう。